

西東京市社会参加に関する調査
(調査名：ひきこもり実態調査)

報告書

令和7年1月

西東京市

目次

第1章	調査の概要	1
1	調査の目的	1
2	調査の概要	1
	(1) 調査実施概要	1
第2章	調査結果のまとめ	2
第3章	アンケート回答結果	4
1	集計結果の表示方法・留意事項	4
2	集計結果	4
3	自由回答	25
第4章	参考資料	37
1	調査票	37

第1章 調査の概要

1 調査の目的

西東京市（以下「市」という。）では、日頃からひきこもり状態にある方やその家族等と関わる可能性のある関係機関を対象として、ひきこもり状態にある方々の生活状況やニーズ、課題等を把握し、今後のひきこもり支援施策の基礎資料とするための調査を実施した。

2 調査の概要

(1) 調査実施概要

①調査の対象

関係機関等 : 310 件

②調査方法

配布方法 : 郵送配布

回答方法 : 郵送またはインターネット回答

③調査時期

配布日 : 令和6年8月2日

回答期限 : 令和6年8月30日

④有効回答数及び有効回答率

有効回答数 : 222 件（うち郵送回答 142 件、インターネット回答 80 件）

有効回答率 : 71.6%

第2章 調査結果のまとめ

■ひきこもり状態にある方の把握状況と生活状況

- ・ ひきこもり状態にある方を「把握していない」、「相談はなかった」が半数を超えている。
- ・ ひきこもり状態にある方を把握する主な方法としては、「家族からの相談」が最も多い。
- ・ ひきこもり状態にある方の同居者としては、「同居者あり（家族）」が最も多い。

- ・ 担当地区内で「ひきこもりの状態にある方」を「把握していない」（29.7%）が最も多く、次いで「把握している」（29.3%）、「相談はなかった」（23.0%）となっている。
- ・ ひきこもり状態にある方がいることを把握する主な方法としては、「家族からの相談」（52.6%）が最も多く、次いで「行政機関からの情報提供」（27.8%）、「その他（具体的に）」（24.7%）となっている。
- ・ ひきこもり状態の方の同居者としては、「同居者あり（家族）」（83.5%）が最も多く、次いで「同居者なし（一人暮らし）」（13.4%）となっている。

■相談・支援の現状

- ・ 相談者は「親」が最も多い。
- ・ ひきこもりに係る相談の方法では、「訪問相談（アウトリーチ）」が最も多い。
- ・ ひきこもり状態の方に行っている支援内容では、「支援情報の提供（他団体の情報含む）」が最も多い。
- ・ ひきこもりの相談・支援を継続して行う中で当事者の行動範囲にみられた変化について、「目立った変化は見られなかった」が最も多い。

- ・ 相談者は「親」（56.7%）が最も多く、次いで「当事者」（19.6%）、「その他」（17.5%）となっている。
- ・ 相談方法では、「訪問相談（アウトリーチ）」（33.0%）が最も多く、次いで「電話」（25.8%）、「対面（来所）」（19.6%）となっている。
- ・ ひきこもり状態の方に行っている支援内容では、「支援情報の提供（他団体の情報含む）」（42.3%）が最も多く、次いで「家族個別支援（面談等）」（29.9%）、「当事者のカウンセリング」（19.6%）となっている。
- ・ ひきこもりの相談・支援を継続して行う中で当事者の行動範囲にみられた変化について、「目立った変化は見られなかった」（45.4%）が最も多く、次いで「その他」（14.4%）、「自宅から出られるようになった」（11.3%）となっている。

■相談・支援の課題

・ ひきこもり支援の課題は、若年層、中高年層ともに「ひきこもりに係る知識や支援ノウハウを有していない」が最も多い。

- ・ 若年層へのひきこもり支援の課題は、「ひきこもりに係る知識や支援ノウハウを有していない」(48.6%)が最も多く、次いで「家族から相談があっても、当事者が相談・支援を望んでいない」(48.2%)、「当事者や家族からの相談に対して、適切な対応がわからない」(37.4%)となっている。
- ・ 中高年層へのひきこもり支援の課題は、「ひきこもりに係る知識や支援ノウハウを有していない」(47.7%)が最も多く、次いで「家族から相談があっても、当事者が相談・支援を望んでいない」(47.3%)、「相談・支援に至るまでに長期間経過しており、対応が難しいと感じる」(37.4%)となっている。

■今後重要と考える取り組み

・ 今後、連携を強化する必要があると感じている関係機関は、「ひきこもり地域支援センター（東京都ひきこもりサポートネット）」が最も多い。

・ ひきこもりに係る支援について行政や支援機関が今後取り組む必要があると思われることは、「身近な地域における相談体制の充実」が最も多い。

- ・ 今後、連携を強化する必要があると感じている関係機関は、「ひきこもり地域支援センター（東京都ひきこもりサポートネット）」(46.8%)が最も多く、次いで「子ども家庭支援センター」(40.5%)、「学校（スクールカウンセラー等を含む）」(37.8%)、「保健所・保健センター」(28.8%)となっている。
- ・ ひきこもりに係る支援について行政や支援機関が今後取り組む必要があると思われることは、「身近な地域における相談体制の充実」(64.4%)が最も多く、次いで「地域における連携ネットワークづくり」(55.0%)、「家族向けのひきこもりに関するセミナー、家族教室等」(41.0%)となっている。

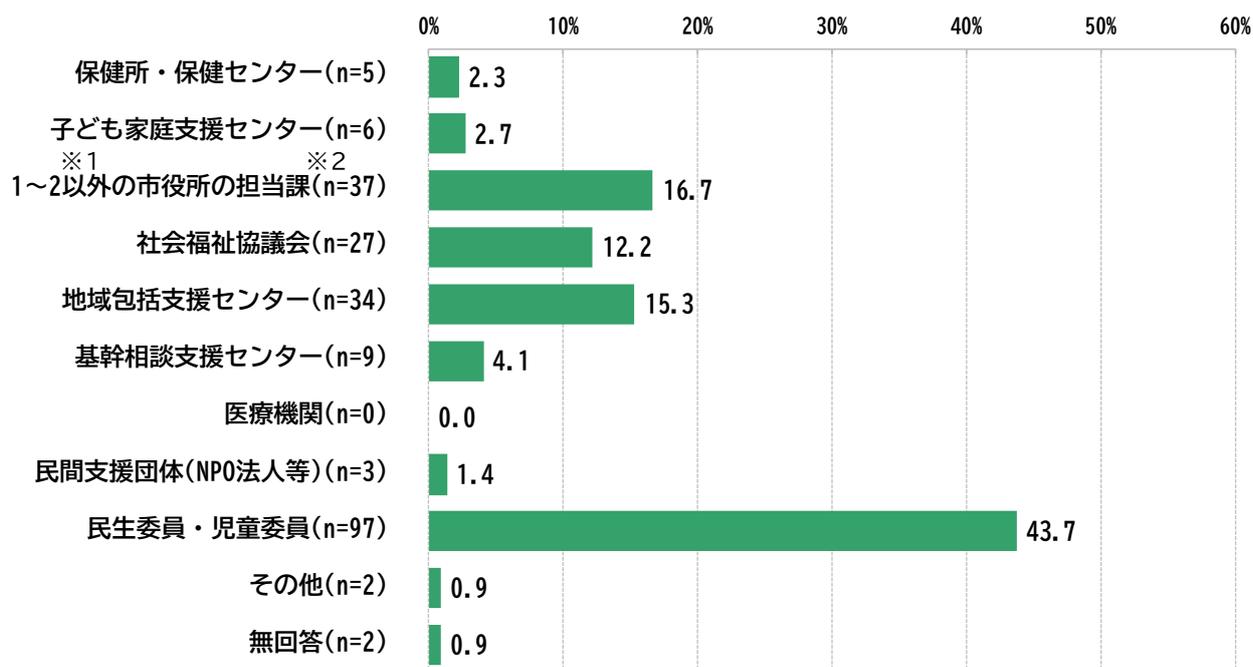
第3章 アンケート回答結果

1 集計結果の表示方法・留意事項

- ・原則として調査票の順番に沿って集計結果を示している。
- ・文章中の「n=〇〇」はその設問についての有効回答数を示している。
- ・集計結果は、小数点第2位を四捨五入して表示しているため、数値の合計が100.0%にならない場合がある。
- ・回答の比率(%)は、その質問の回答者数を基礎として算出しているため、複数回答の設問はすべての比率を合計すると、100.0%を超える場合がある。
- ・問22、問24、問30については自由回答の設問のため、P25以降にまとめて記載している。

2 集計結果

問1 あなたの所属についてお答えください。(1つ)



※1 保健所・保健センター、子ども家庭支援センター

※2 健康課、障害福祉課、生活福祉課

問2 あなたの担当地区は、次のどれにあたりますか。(いくつでも)

	n	%
市内全域	35	15.8
南町	14	6.3
向台町	16	7.2
東伏見	20	9.0
柳沢	22	9.9
新町	18	8.1
北原町	14	6.3
田無町	29	13.1

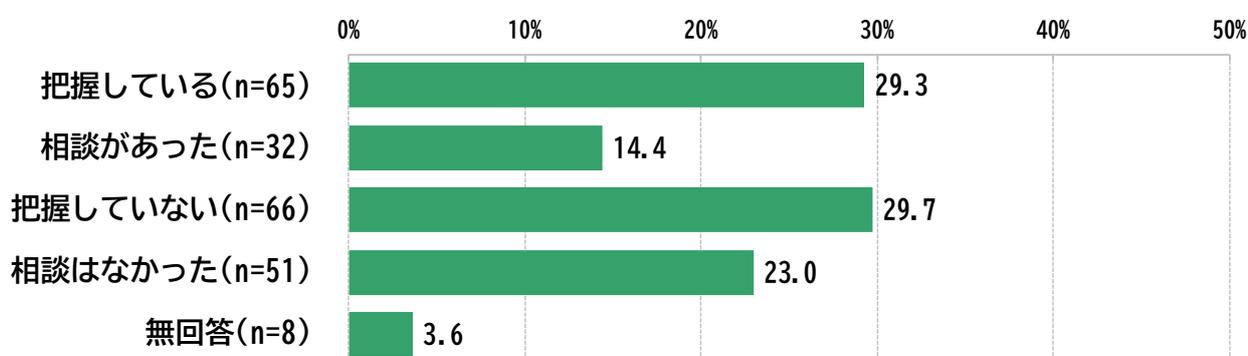
	n	%
住吉町	14	6.3
泉町	18	8.1
保谷町	31	14.0
谷戸町	20	9.0
緑町	17	7.7
西原町	20	9.0
芝久保町	26	11.7
ひばりが丘	18	8.1

	n	%
ひばりが丘北	16	7.2
下保谷	17	7.7
栄町	14	6.3
東町	16	7.2
中町	21	9.5
富士町	25	11.3
北町	16	7.2
無回答	1	0.5

問3 担当する地区内にお住いの「ひきこもりの状態にある方」※を把握していますか。または、相談を受ける機会がありますか。(1つ)

※ここでいう「ひきこもり」とは、「仕事や学校に行かず、かつ家族以外の人との交流をほとんどせずに、6ヶ月以上続けて概ね自宅にとどまり続けている方。ただし、近所への買い物や趣味の用事の時だけ外出することはよい

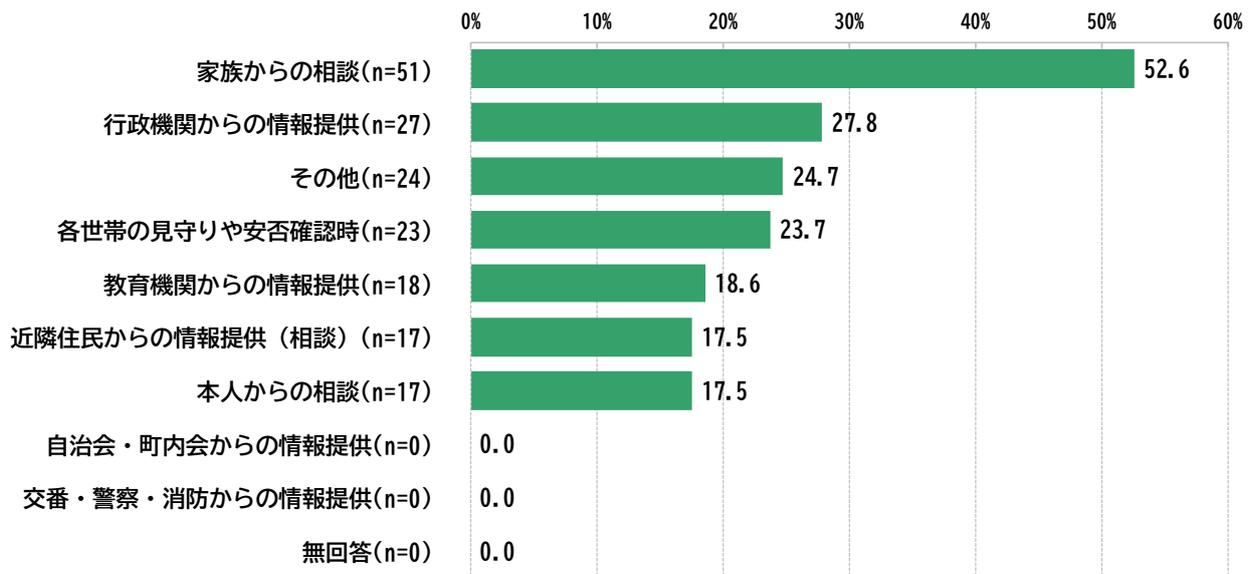
・「把握していない」(29.7%)が最も多く、次いで「把握している」(29.3%)、「相談はなかった」(23.0%)となっている。



問4～問20は問3で「把握している」「相談があった」と回答した方(97件)が回答

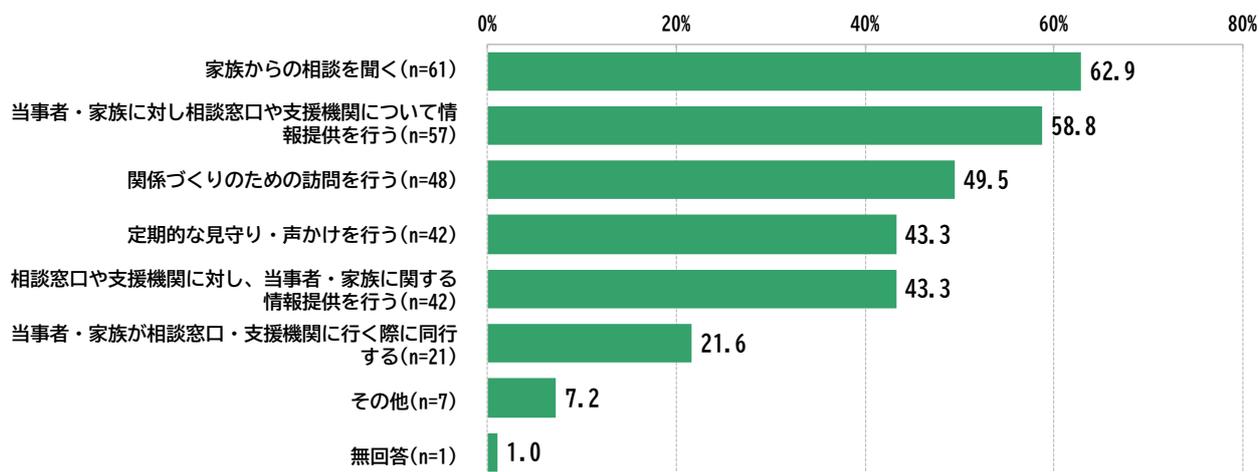
問4 担当する地区にひきこもり状態にある方がいることをどのような方法で知りますか。(いくつでも)

- ・「家族からの相談」(52.6%)が最も多く、次いで「行政機関からの情報提供」(27.8%)、「その他」(24.7%)となっている。



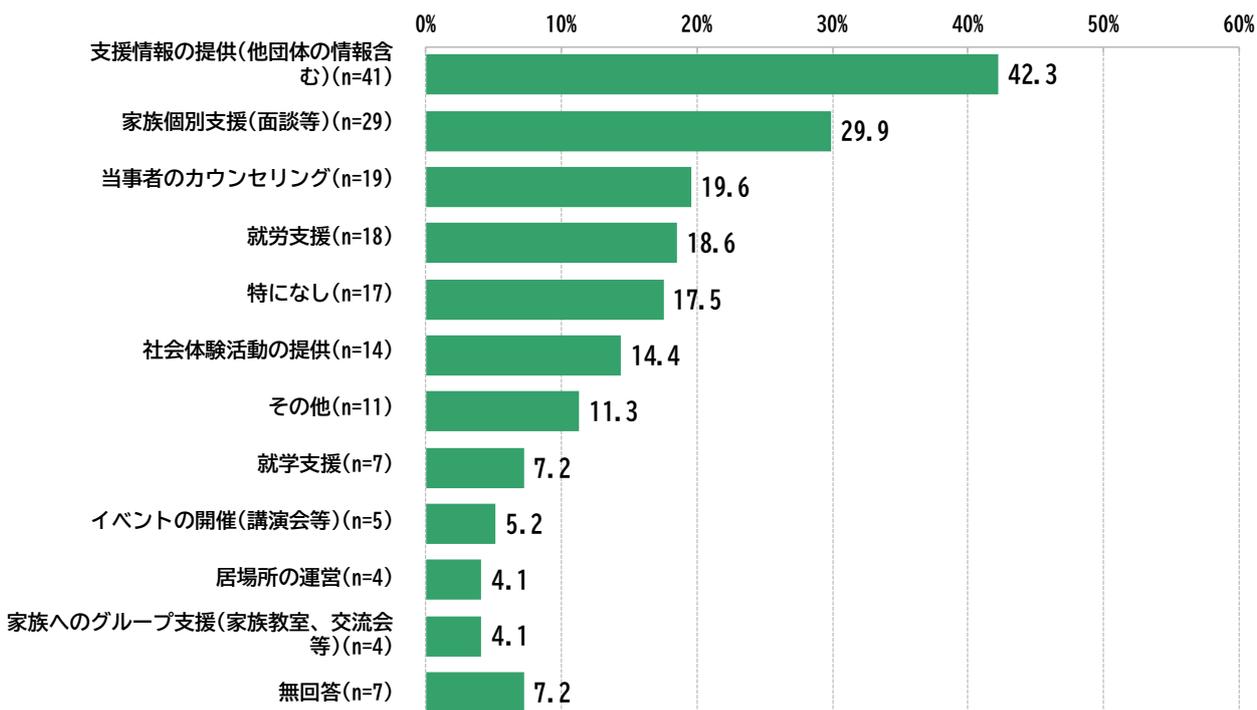
問5 担当する地区にひきこもり状態にある方がいることを知ったとき、どのような対応をすることが多いですか。（いくつでも）

- ・「家族からの相談を聞く」（62.9%）が最も多く、次いで「当事者・家族に対し相談窓口や支援機関について情報提供を行う」（58.8%）、「関係づくりのための訪問を行う」（49.5%）となっている。



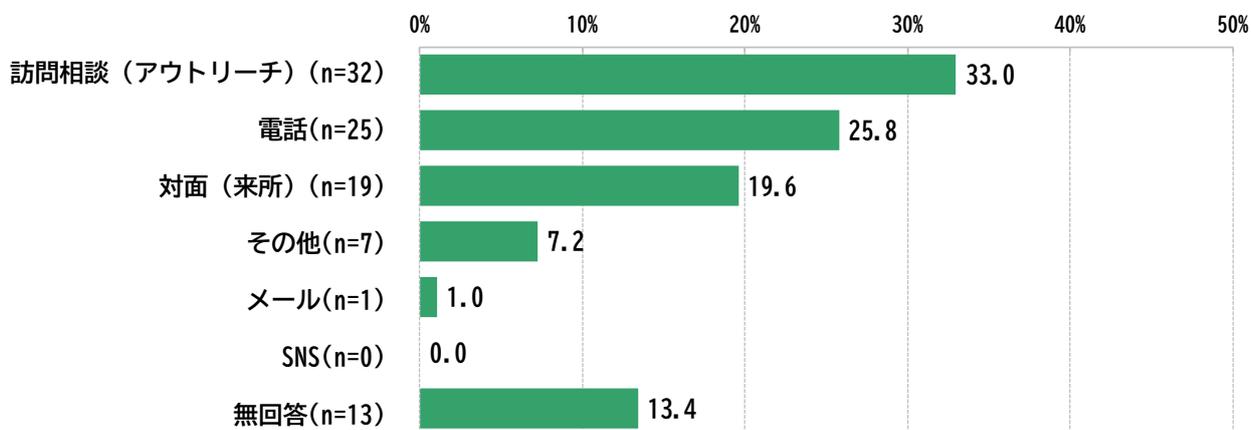
問6 ひきこもりの方に対して行っている支援の内容についてお答えください。（いくつでも）

- ・「支援情報の提供（他団体の情報含む）」（42.3%）が最も多く、次いで「家族個別支援（面談等）」（29.9%）、「当事者のカウンセリング」（19.6%）となっている。



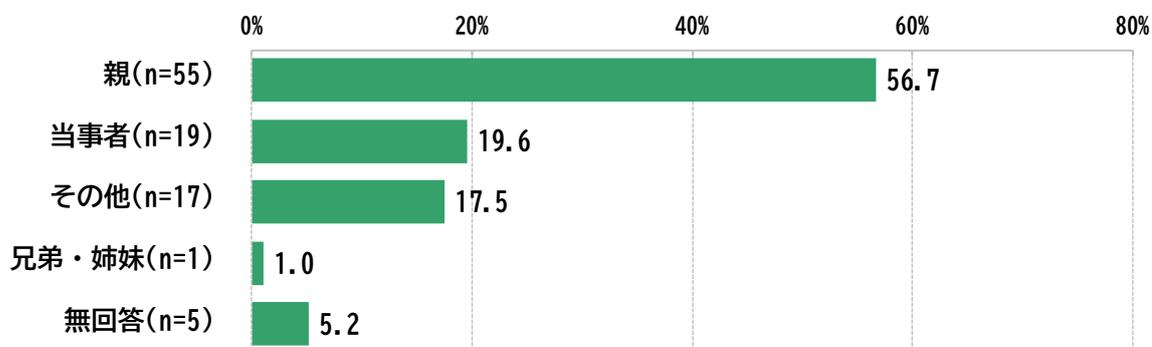
問7 ひきこもりに係る相談の相談方法として、最も多いものをお答えください。(1つ)

・「訪問相談(アウトリーチ)」(33.0%)が最も多く、次いで「電話」(25.8%)、「対面(来所)」(19.6%)となっている。



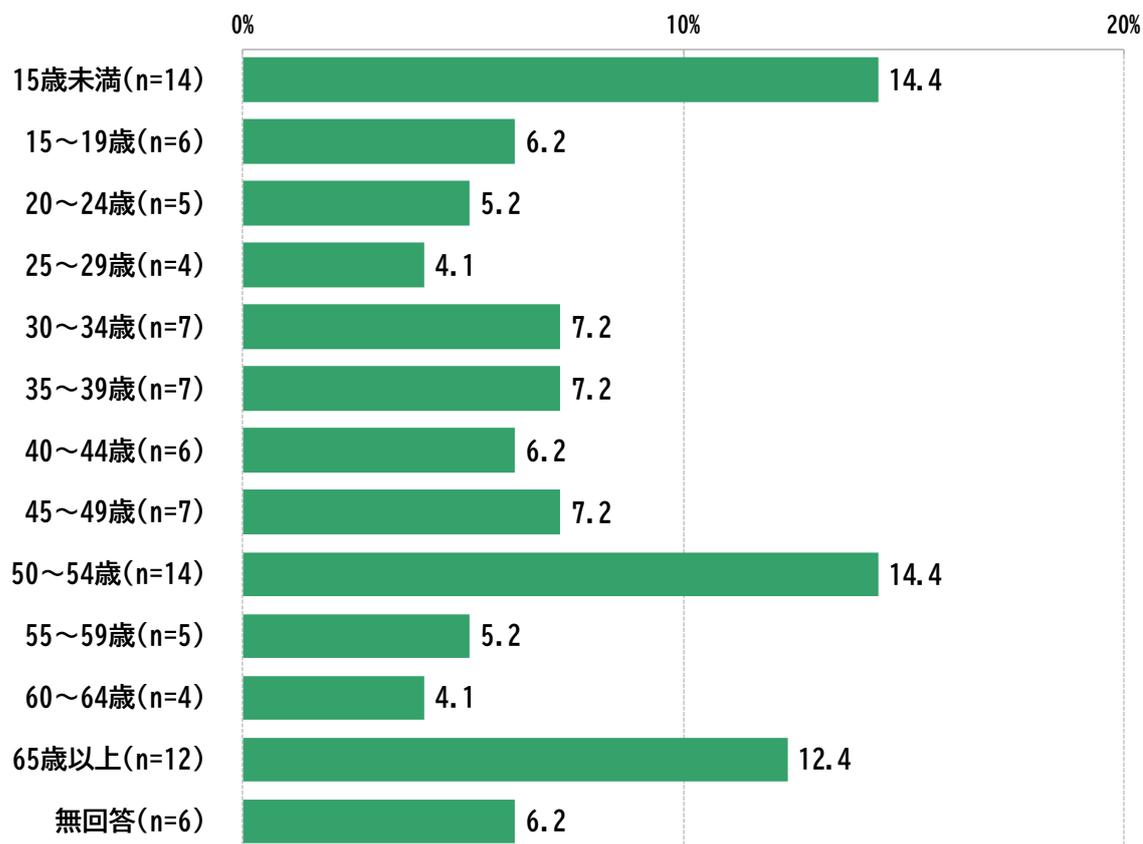
問8 相談者の当事者との関係として、最も多いものをお答えください。(1つ)

・「親」(56.7%)が最も多く、次いで「当事者」(19.6%)、「その他」(17.5%)となっている。



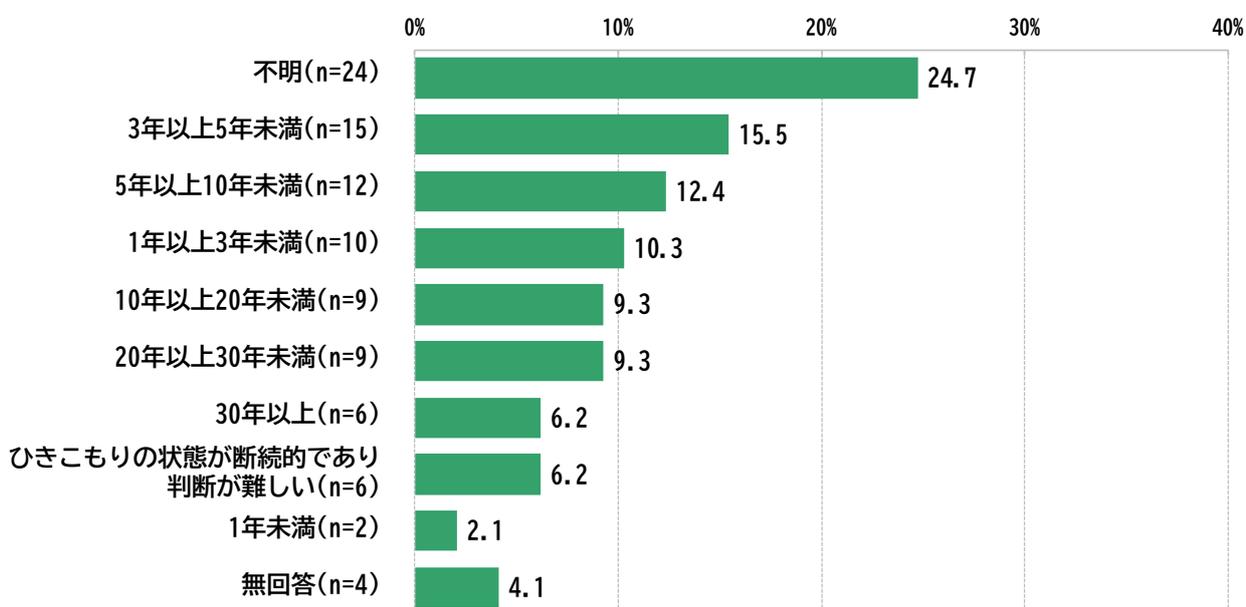
問9 ひきこもりに係る相談者の年齢として、最も多いものをお答えください。(1つ)

- ・「15歳未満」(14.4%)と「50～54歳」(14.4%)が最も多く、次いで「65歳以上」(12.4%)、「30～34歳」「30～39歳」「45～49歳」(ともに7.2%)となっており、どの世代も満遍なく分布している。



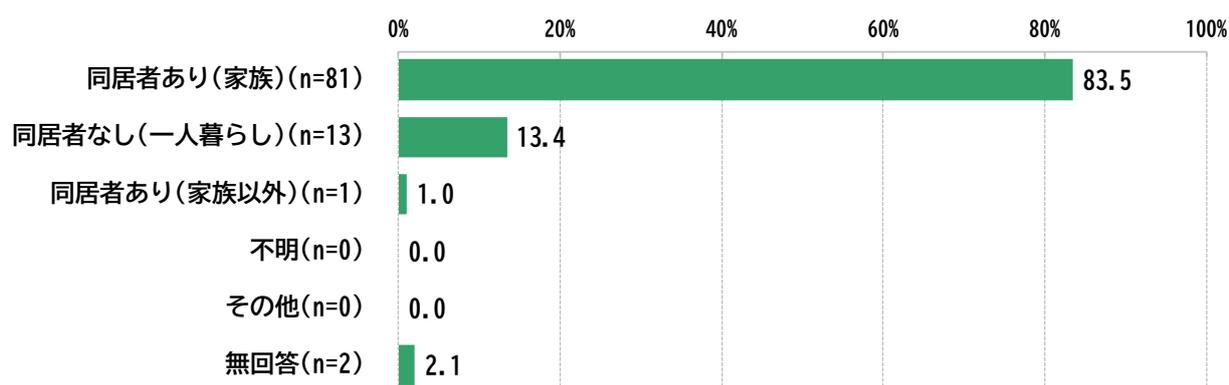
問 10 ひきこもり状態が継続している期間として、最も多いものをお答えください。(1つ)

- ・「不明」(24.7%) が最も多く、次いで「3年以上5年未満」(15.5%)、「5年以上10年未満」(12.4%) となっている。



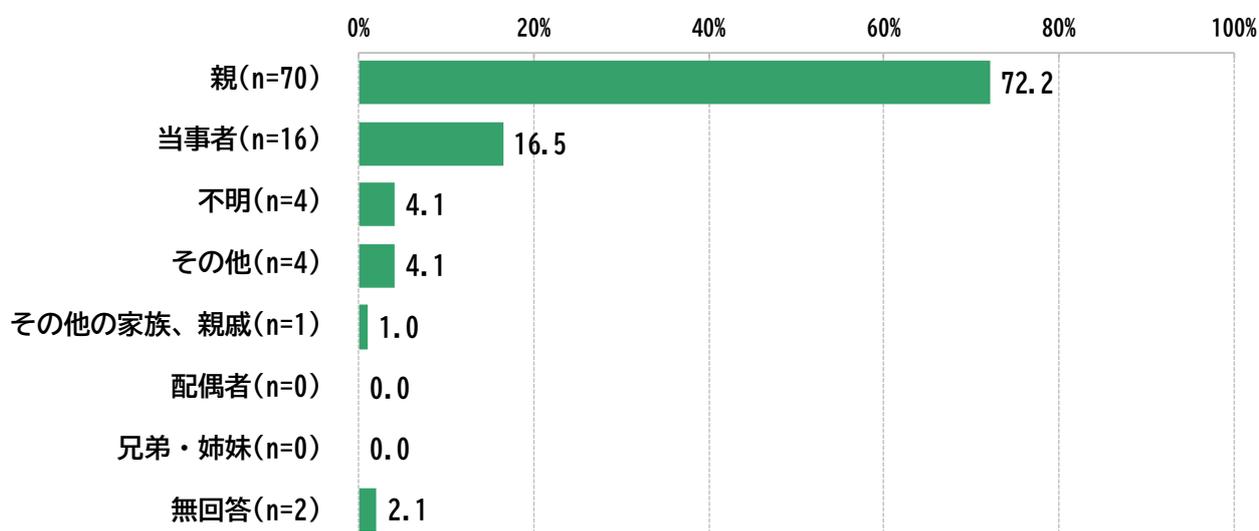
問 11 ひきこもり状態の方の同居者として、最も多いものをお答えください。(1つ)

- ・「同居者あり(家族)」(83.5%) が最も多く、次いで「同居者なし(一人暮らし)」(13.4%)、「同居者あり(家族以外)」(1.0%) となっている。



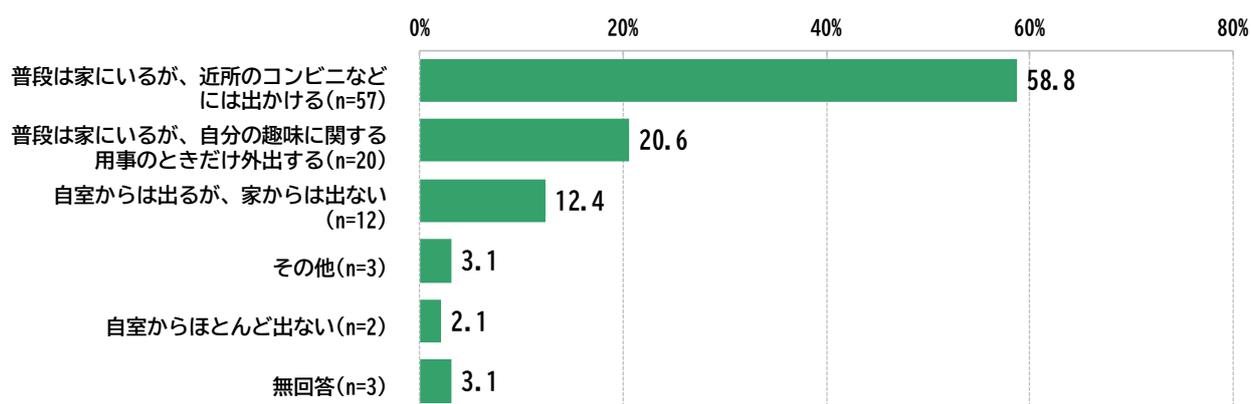
問 12 主たる生計維持者と当事者との関係として、最も多いものをお答えください。(1つ)

- ・「親」(72.2%) が最も多く、次いで「当事者」(16.5%)、「不明」と「その他」(ともに4.1%) となっている。



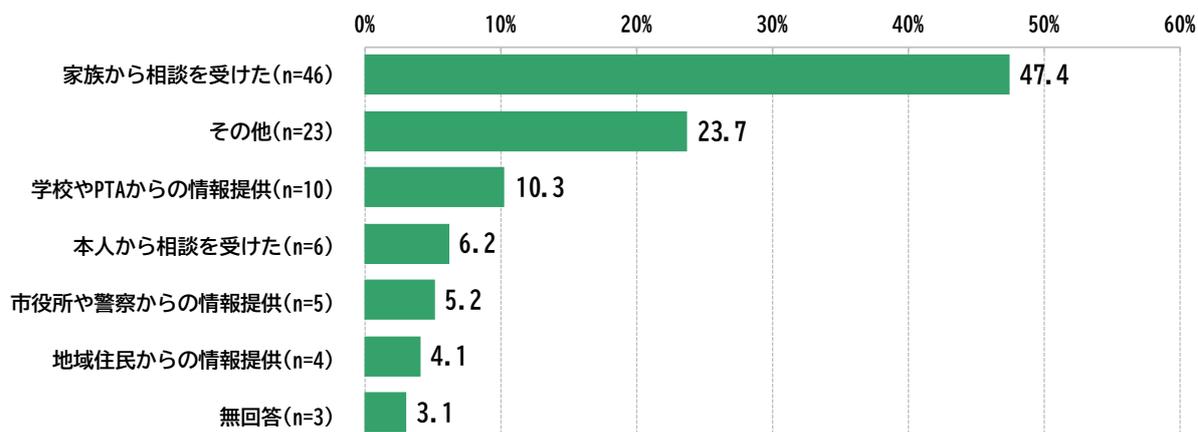
問 13 当事者や家族等から相談があったときの当事者の状態として、最も多いものをお答えください。(1つ)

- ・「普段は家にいるが、近所のコンビニなどには出かける」(58.8%) が最も多く、次いで「普段は家にいるが、自分の趣味に関する用事するときだけ外出する」(20.6%)、「自室からは出るが、家からは出ない」(12.4%) となっている。



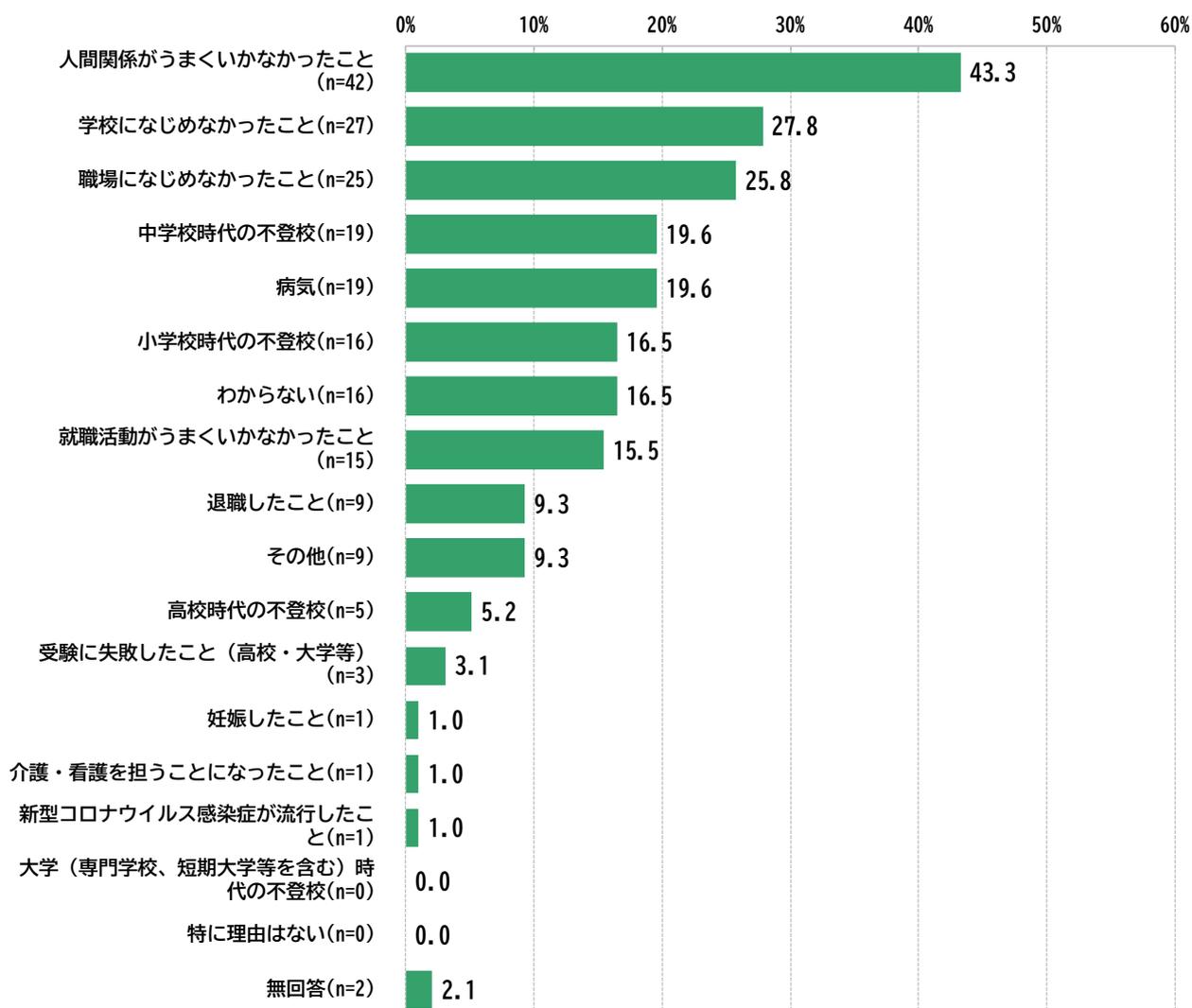
問 14 ひきこもり状態にあることを知ったきっかけとして、最も多いものをお答えください。
(1つ)

- ・「家族から相談を受けた」(47.4%)が最も多く、次いで「その他」(23.7%)、「学校やPTAからの情報提供」(10.3%)となっている。



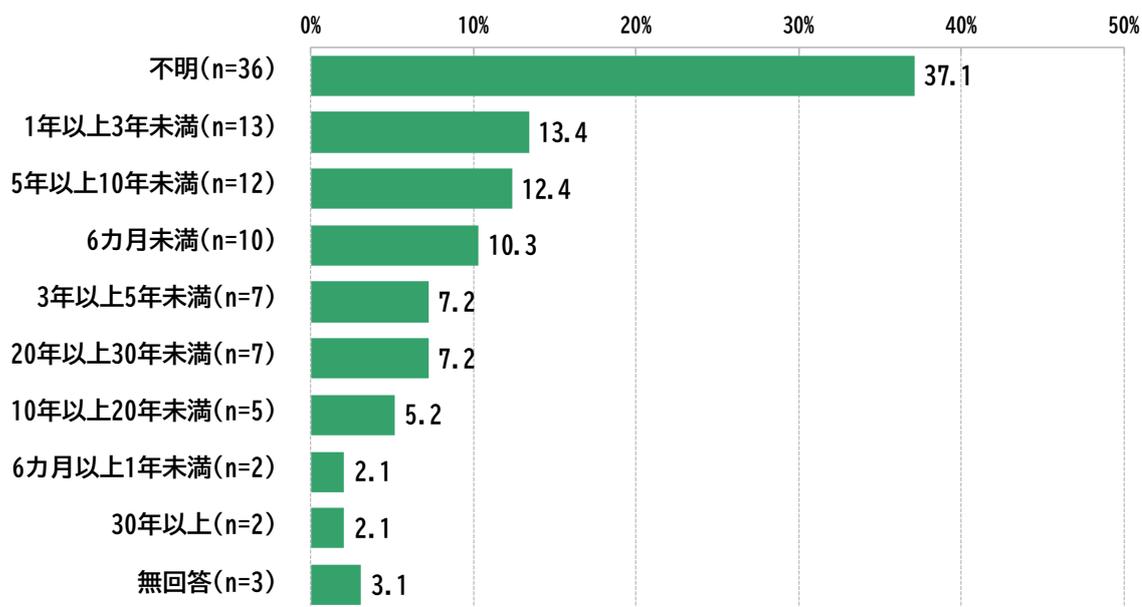
問 15 ひきこもり状態になった主なきっかけとして、多いものを3つまでお答えください。(3つまで)

・「人間関係がうまくいかなかったこと」(43.3%) が最も多く、次いで「学校になじめなかったこと」(27.8%)、「職場になじめなかったこと」(25.8%) となっている。



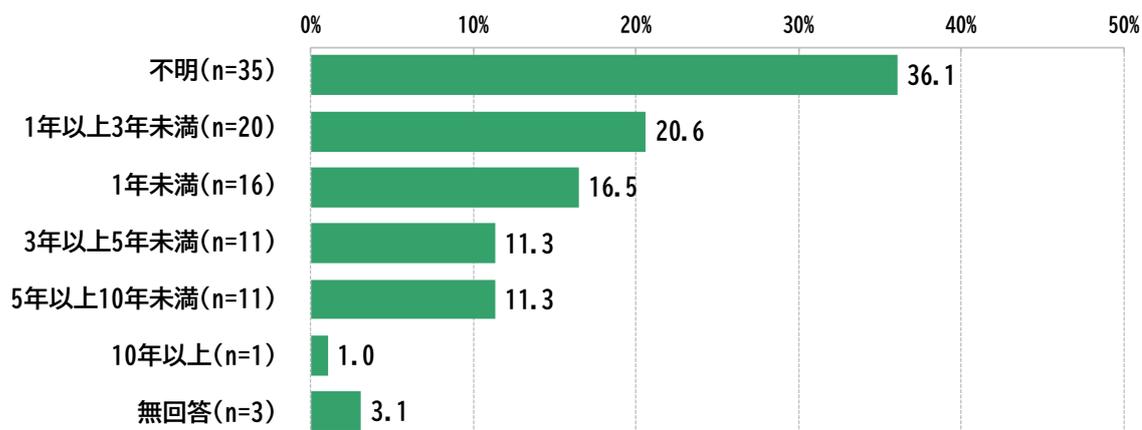
問 16 ひきこもり状態になってから、貴機関に相談するまでに要した期間として、最も多いものをお答えください。(1つ)

・「不明」(37.1%)が最も多く、次いで「1年以上3年未満」(13.4%)、「5年以上10年未満」(12.4%)となっている。



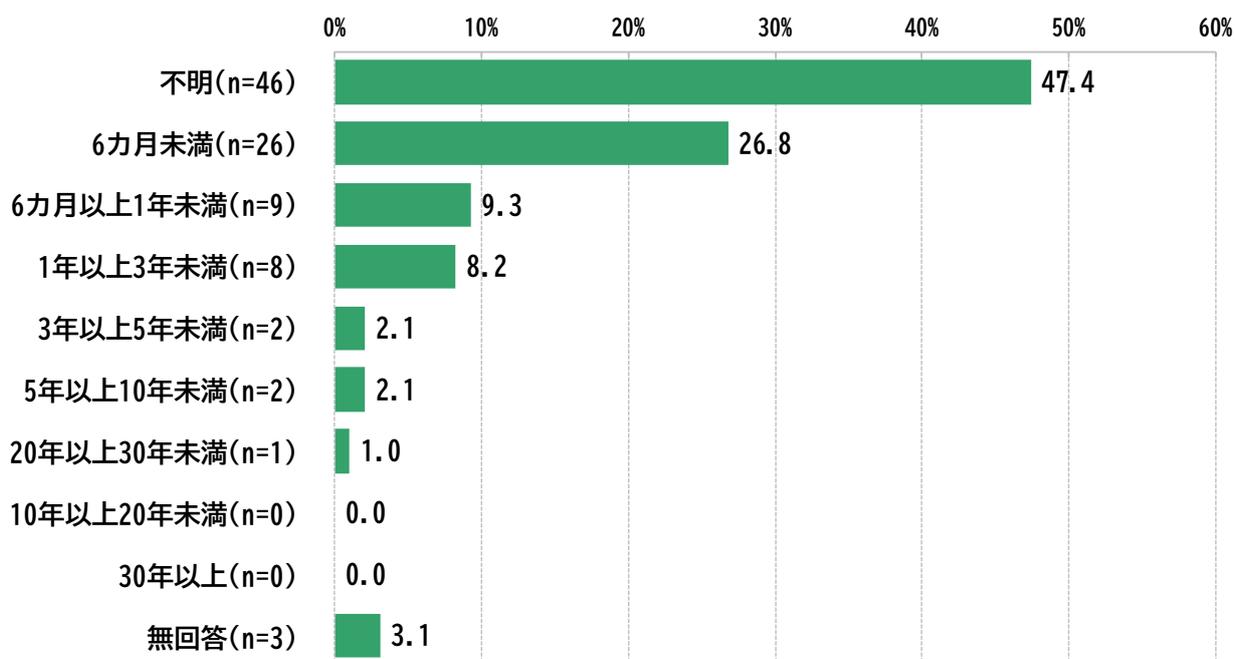
問 17 ひきこもりの相談・支援の継続期間として、最も多いものをお答えください。(1つ)

・「不明」(36.1%)が最も多く、次いで「1年以上3年未満」(20.6%)、「1年未満」(16.5%)となっている。



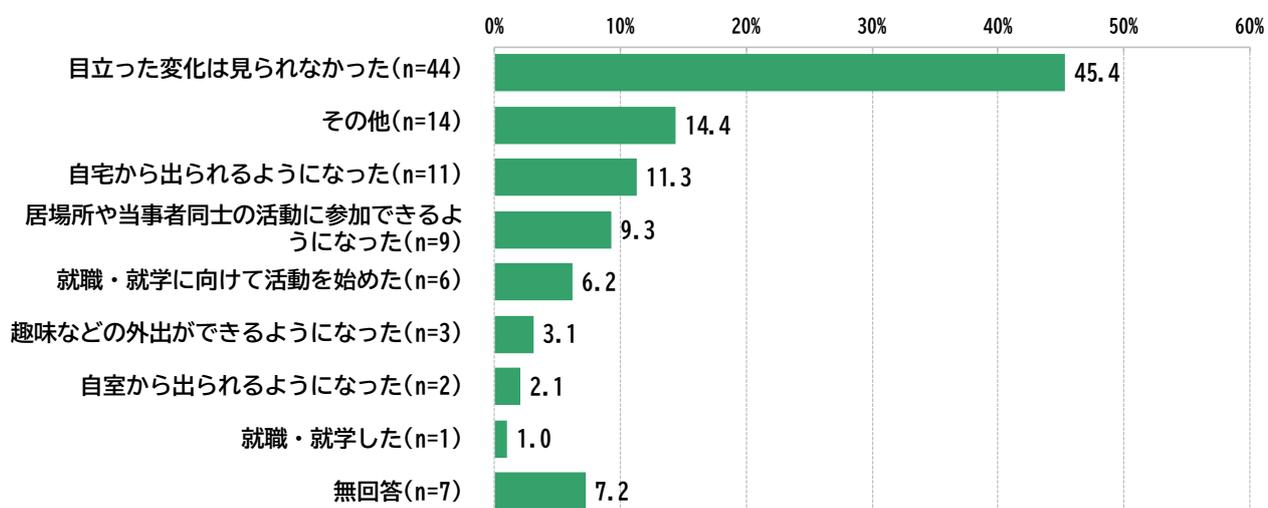
問 18 家族への支援を開始してから当事者の支援（支援者が訪問・来所相談等で当事者と直接会って面談ができる等）に至るまでに要した期間として、最も多いものをお答えください。（1つ）

・「不明」(47.4%) が最も多く、次いで「6 カ月未満」(26.8%)、「6 カ月以上1 年未満」(9.3%) となっている。



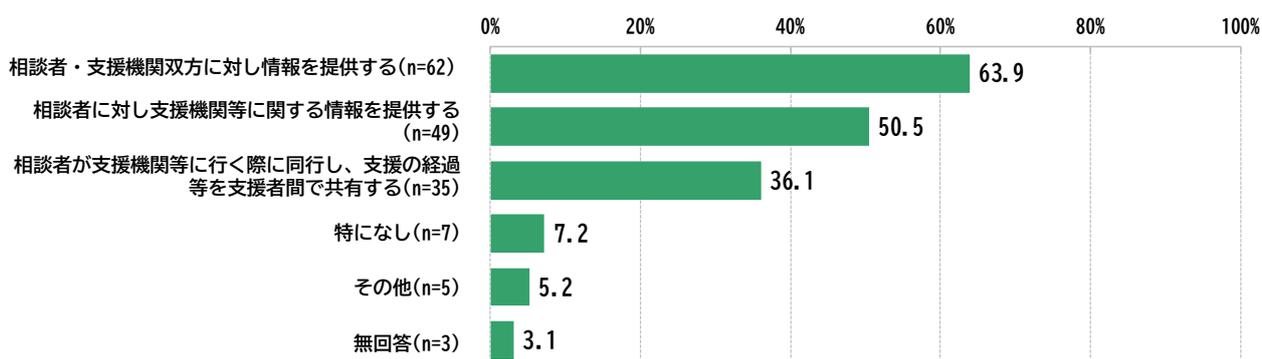
問 19 ひきこもりの相談・支援を継続して行う中で当事者の行動範囲にみられた変化について、最も多いものをお答えください。（1つ）

・「目立った変化は見られなかった」(45.4%) が最も多く、次いで「その他」(14.4%)、「自宅から出られるようになった」(11.3%) となっている。



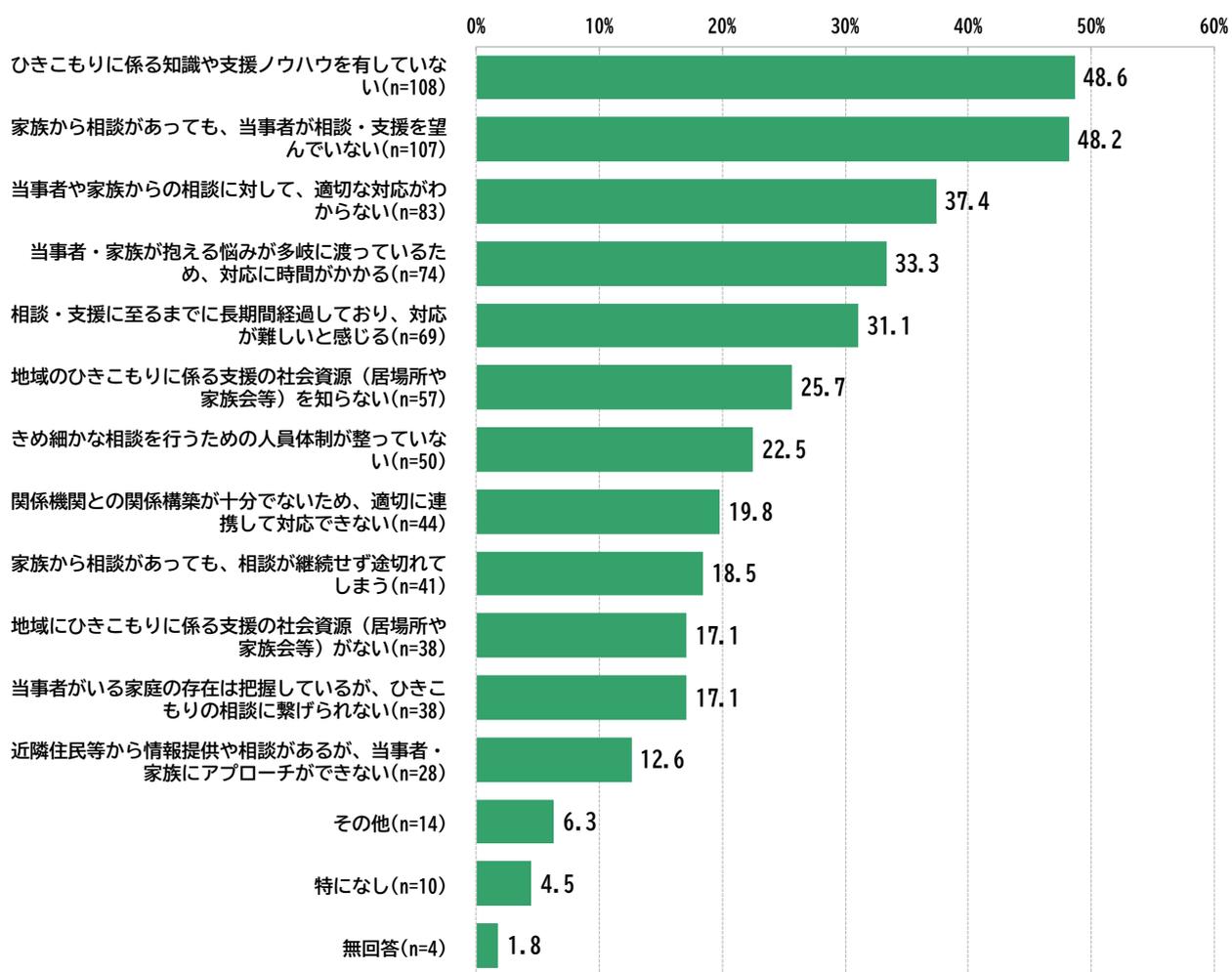
問 20 ひきこもりに関する相談を貴機関から他の機関等につなぐケース（貴機関で相談を受けたが他の支援機関等の方がより適切な支援を行える場合や、他の支援機関での支援を並行して利用することが望ましい場合等）についてどのように対応していますか。（いくつでも）

- ・「相談者・支援機関双方に対し情報を提供する」（63.9%）が最も多く、次いで「相談者に対し支援機関等に関する情報を提供する」（50.5%）、「相談者が支援機関等に行く際に同行し、支援の経過等を支援者間で共有する」（36.1%）となっている。



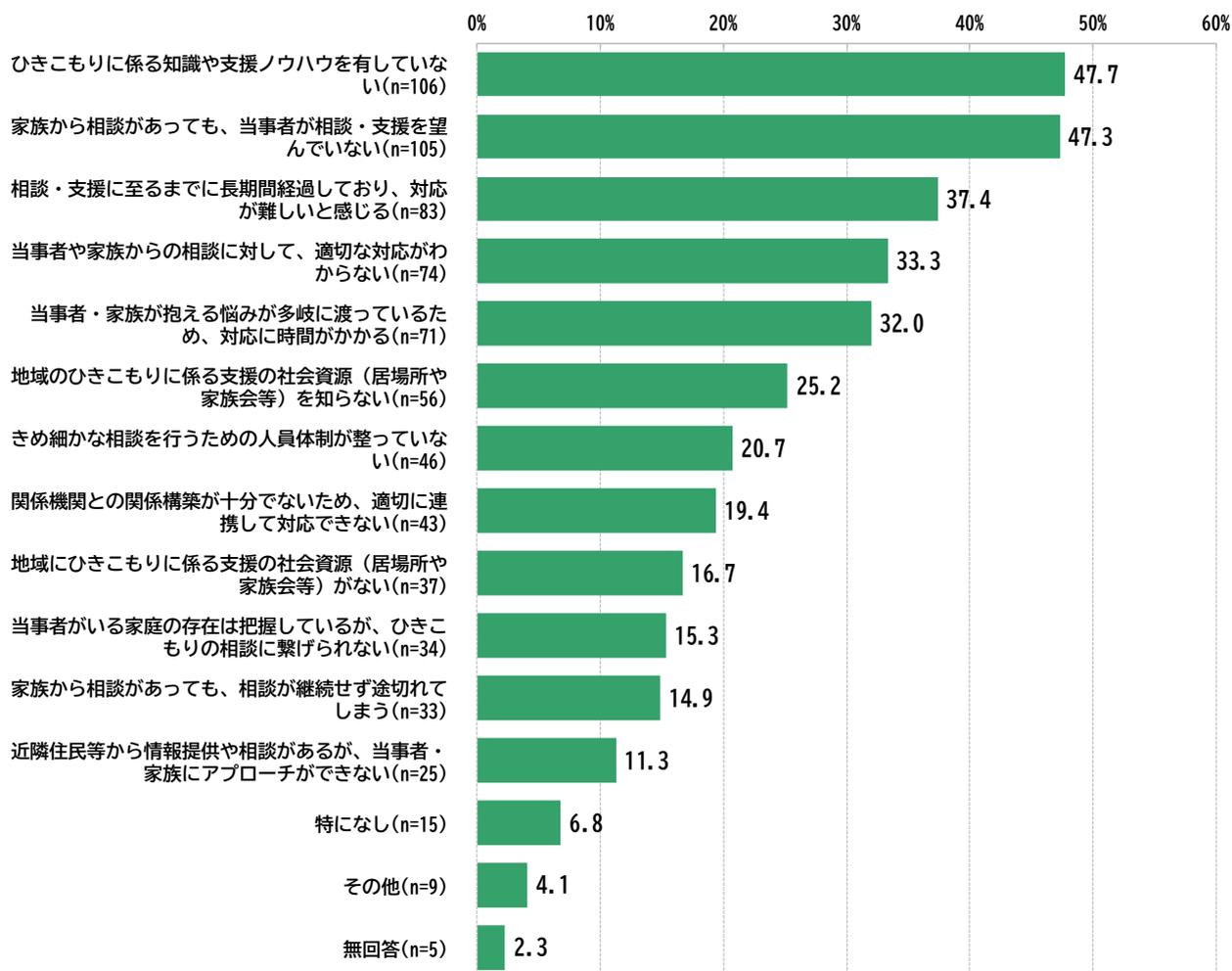
問 21 若年層（おおむね 39 歳まで）の当事者に係るひきこもりの相談・支援において、貴機関が課題と感じていることは何ですか。（いくつでも）

・「ひきこもりに係る知識や支援ノウハウを有していない」（48.6%）が最も多く、次いで「家族から相談があっても、当事者が相談・支援を望んでいない」（48.2%）、「当事者や家族からの相談に対して、適切な対応がわからない」（37.4%）となっている。



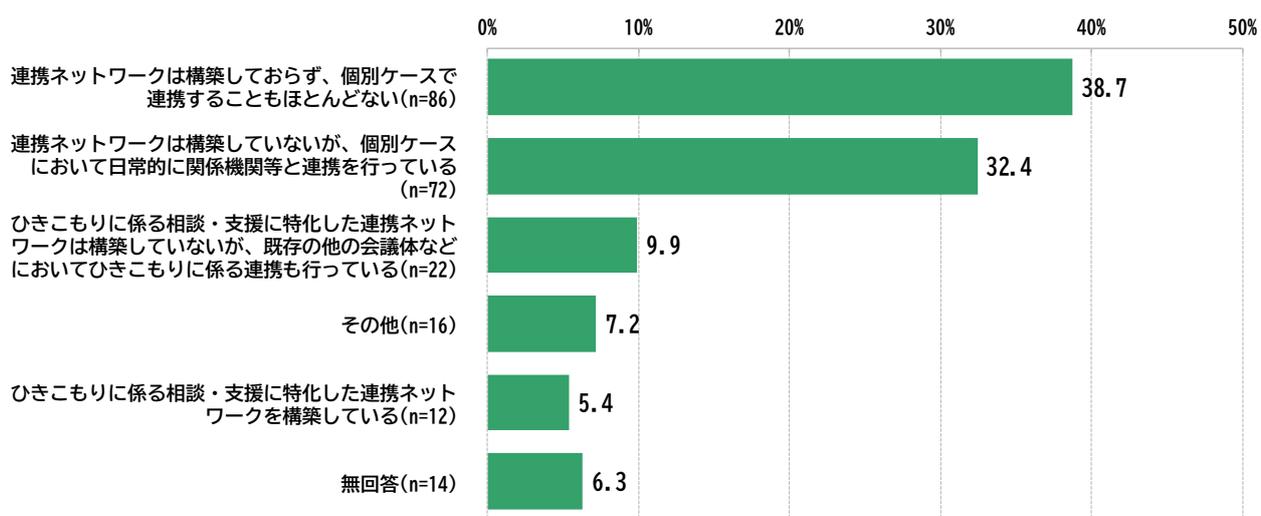
問 23 中高年層（おおむね 40 歳以上）の当事者に係るひきこもりの相談・支援について、貴機関が課題として感じていることは何ですか。（いくつでも）

・「ひきこもりに係る知識や支援ノウハウを有していない」（47.7%）が最も多く、次いで「家族から相談があっても、当事者が相談・支援を望んでいない」（47.3%）、「相談・支援に至るまでに長期間経過しており、対応が難しいと感じる」（37.4%）となっている。



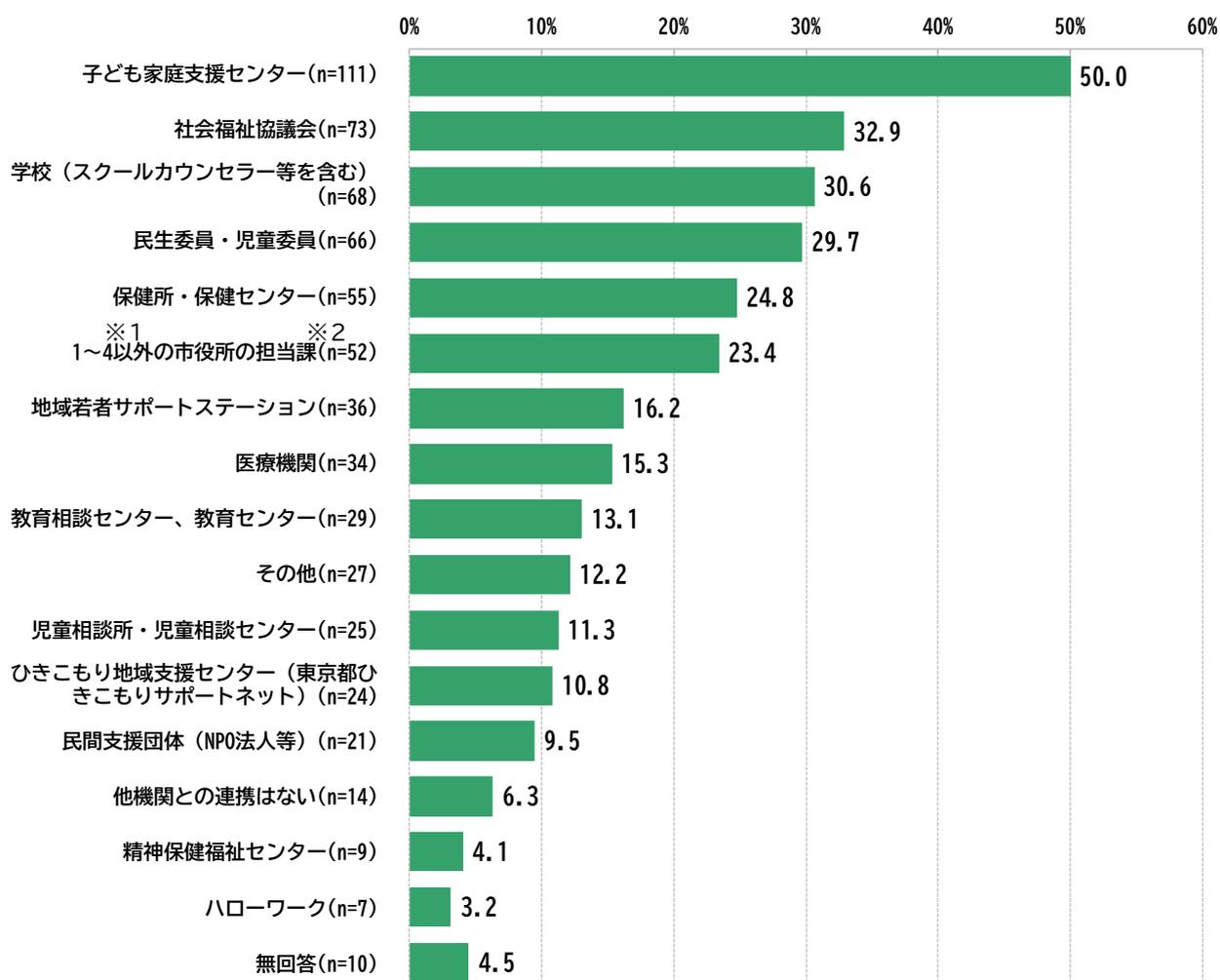
問 25 地域におけるひきこもりに係る連携ネットワークの現状について、あてはまるものをお答えください。(1つ)

- ・「連携ネットワークは構築しておらず、個別ケースで連携することもほとんどない」(38.7%)が最も多く、次いで「連携ネットワークは構築していないが、個別ケースにおいて日常的に関係機関等と連携を行っている」(32.4%)、「ひきこもりに係る相談・支援に特化した連携ネットワークは構築していないが、既存の他の会議体などにおいてひきこもりに係る連携も行っている」(9.9%)となっている。



問 26 ひきこもりに係る相談・支援において、貴機関が連携している関係機関等をお答えください。(いくつでも)

・「子ども家庭支援センター」(50.0%) が最も多く、次いで「社会福祉協議会」(32.9%)、「学校(スクールカウンセラー等を含む)」(30.6%)、「民生委員・児童委員」(29.7%) となっている。

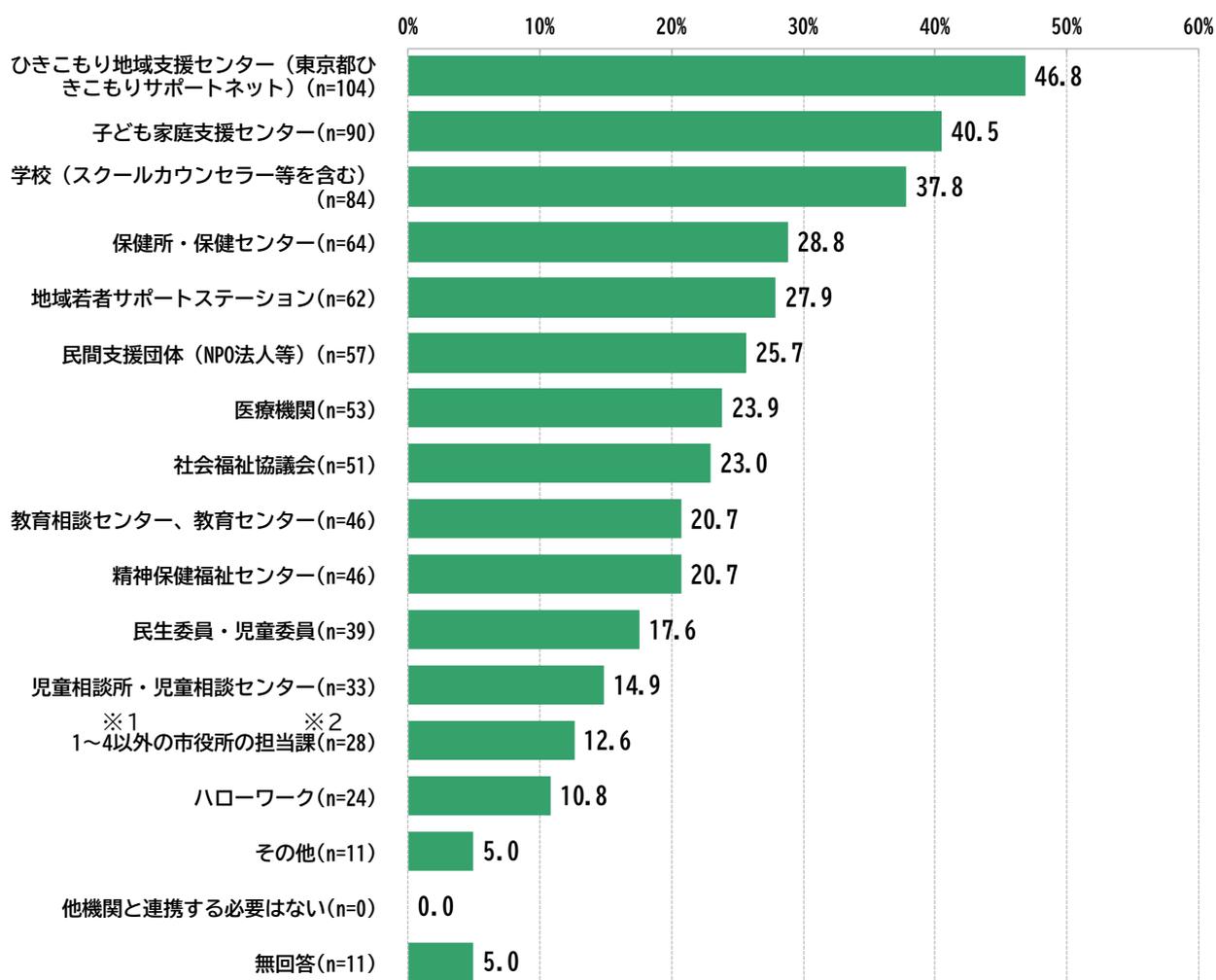


※1 保健所・保健センター、子ども家庭支援センター、教育相談センター、教育センター、学校(スクールカウンセラー等を含む)

※2 健康課・障害福祉課・生活福祉課・高齢者支援課・地域共生課

問 27 ひきこもりに係る相談・支援において、貴機関が今後連携を強化する必要があると感じている関係機関等をお答えください。(いくつでも)

・「ひきこもり地域支援センター（東京都ひきこもりサポートネット）」(46.8%) が最も多く、次いで「子ども家庭支援センター」(40.5%)、「学校（スクールカウンセラー等を含む）」(37.8%)、「保健所・保健センター」(28.8%) となっている。

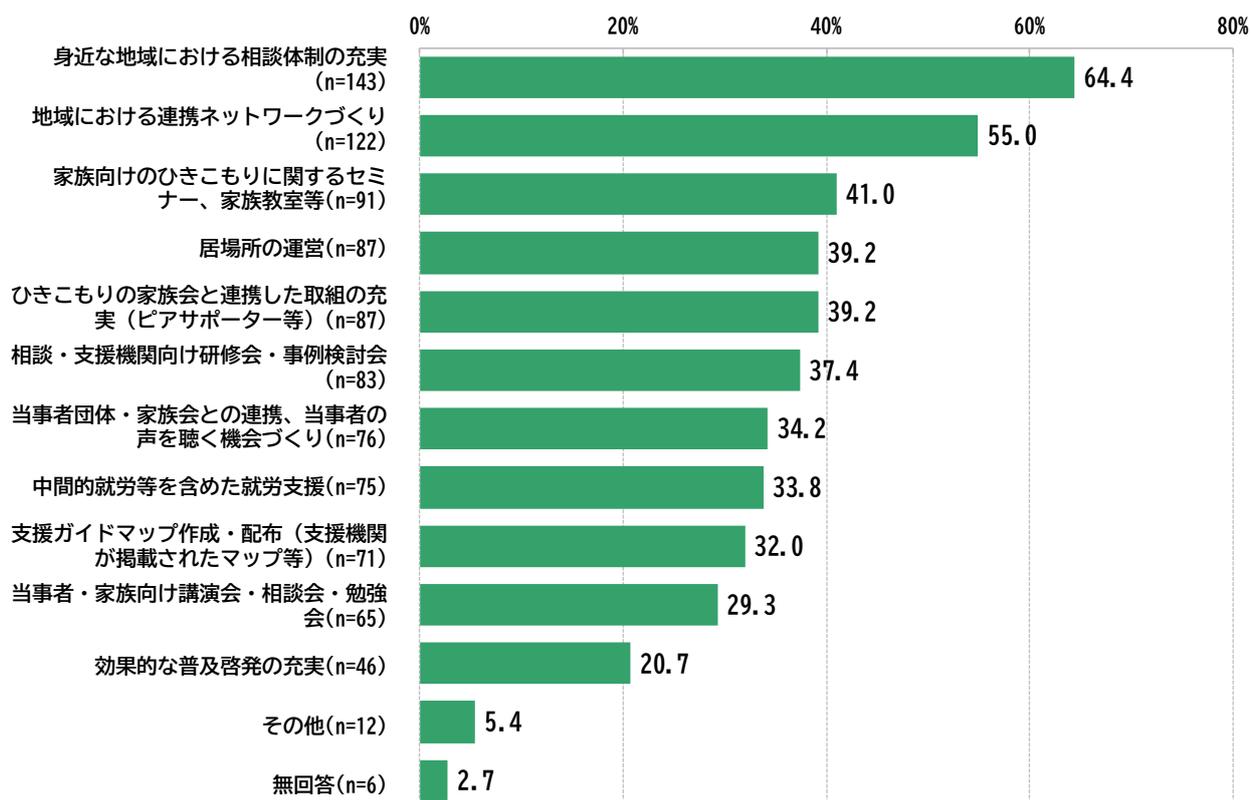


※1 保健所・保健センター、子ども家庭支援センター、教育相談センター、教育センター、学校（スクールカウンセラー等を含む）

※2 健康課・障害福祉課・生活福祉課・高齢者支援課・地域共生課・教育支援課

問 28 ひきこりに係る支援について、行政や支援機関が今後取り組む必要があると思われることは何ですか。（いくつでも）

・「身近な地域における相談体制の充実」(64.4%) が最も多く、次いで「地域における連携ネットワークづくり」(55.0%)、「家族向けのひきこりに関するセミナー、家族教室等」(41.0%) となっている。



問 29 「ひきこもり」の背景や、「ひきこもり」についての考え、社会的な支援についてお尋ねします。以下の①～⑰について、あなたのお考えに最も近いものに○をつけてください。
(それぞれ1つ)

・「**そう思う+少しそう思う**」

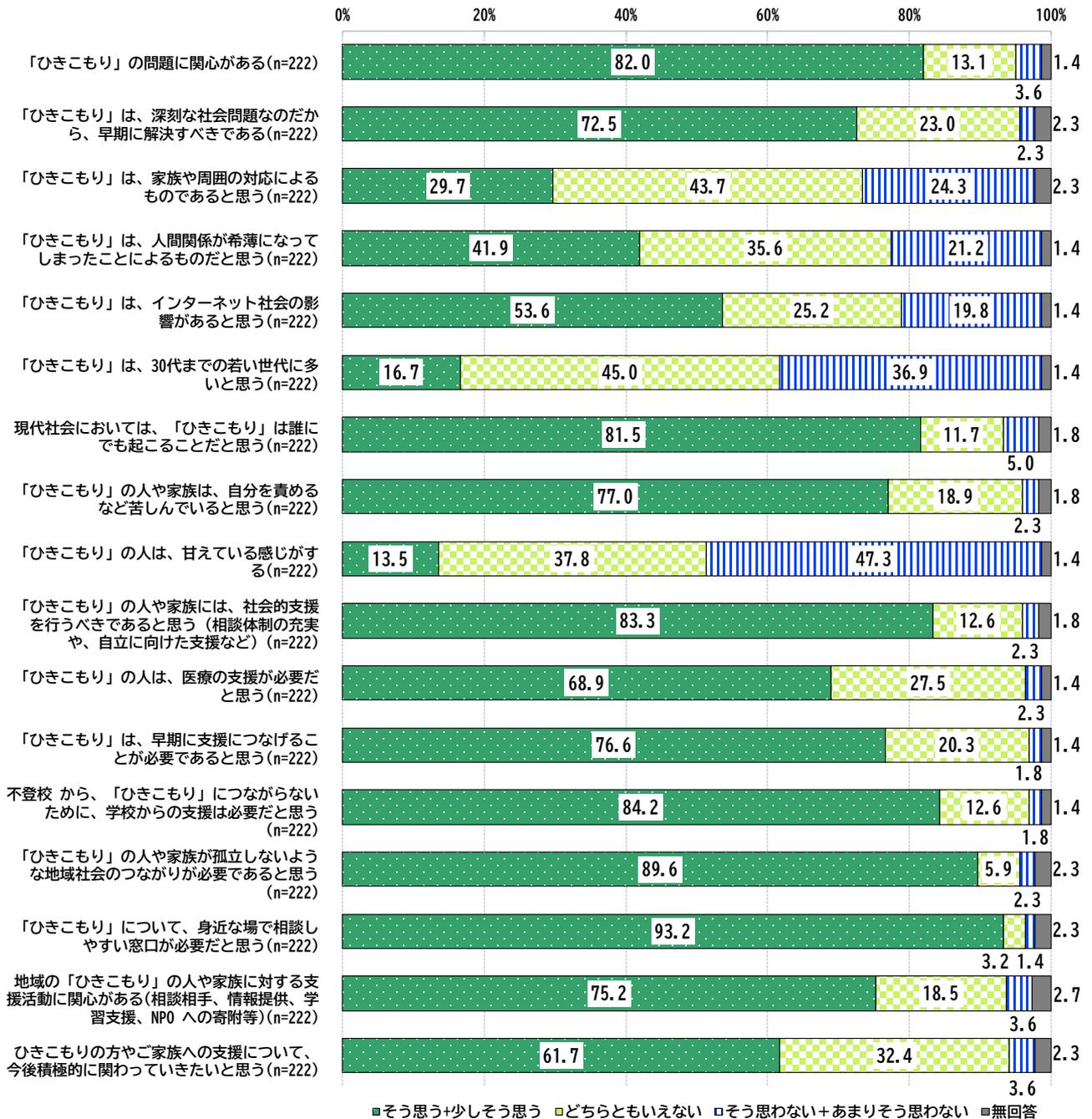
「「ひきこもり」について、身近な場で相談しやすい窓口が必要だと思う」(93.2%)が最も高く、次いで「「ひきこもり」の人や家族が孤立しないような地域社会のつながりが必要であると思う」(89.6%)、「不登校から、「ひきこもり」につながらないために、学校からの支援は必要だと思う」(84.2%)となっている。

・「**どちらともいえない**」

「「ひきこもり」は、30代までの若い世代に多いと思う」(45.0%)が最も多く、次いで「「ひきこもり」は、家族や周囲の対応によるものであると思う」(43.7%)、「「ひきこもり」の人は、甘えている感じがする」(37.8%)となっている。

・「**そう思わない+あまりそう思わない**」

「「ひきこもり」の人は、甘えている感じがする」(47.3%)が最も高く、次いで「「ひきこもり」は、30代までの若い世代に多いと思う」(36.9%)、「「ひきこもり」は、家族や周囲の対応によるものであると思う」(24.3%)となっている。



3 自由回答

問 22 若年層（おおむね 39 歳まで）の当事者への支援において貴機関が課題と感じていることがあれば、自由に記入してください。

自由回答の内容を、情報共有・連携、支援の困難さ、家族・当事者の問題、社会資源、課題の複雑さ、その他という 6 つのテーマに基づいて分類した。

■情報共有・連携に関する意見

- ・ 個人情報の関係で、関係機関からの情報がない
- ・ 支援機関がどこなのか分からない。ノウハウを知らない
- ・ 学校や行政との情報共有
- ・ 地域活動団体や学校との連携が不十分
- ・ 明確な相談窓口の不在

■支援の困難さに関する意見

- ・ 当事者が支援を望んでいない、または相談に至らない
- ・ 支援に対する知識やスキルの不足
- ・ 支援者の顔ぶれが数年単位で変わり、支援が引き継げない
- ・ 個別フォローするだけの業務余力がない
- ・ 支援のためのケース対応が業務として位置付けられていない

■家族・当事者に関する意見

- ・ 家族が方向性を 1 つにすることが難しい
- ・ 家族が情報を外部に開示したがない
- ・ 家族や当事者が相談を望まない
- ・ 親が自分たちで対応できると考え、相談が遅れる
- ・ 家族の心を開くことが難しい

■社会資源に関する意見

- ・ 誰でも利用できる居場所の不足
- ・ 中間的就労や有償ボランティアの場が必要
- ・ 社会資源が少ない
- ・ 総合的な対応ができるワンストップの相談窓口が必要

■課題の複雑さに関する意見

- ・ 家族と本人の悩みに違いがある
- ・ 支援対象者に複合的な問題がある
- ・ 当事者の特性に応じた対応が必要
- ・ 問題の背景が多様で、一概に対応が難しい
- ・ 精神的な病気や障害が併存している場合の対応が難しい

■その他に関する意見

- ・ ひきこもりは周囲に知られたくないという風潮がある
- ・ 高齢者との同居による支援の複雑さ
- ・ 18歳の壁、支援機関が年齢によって変わるため支援が途切れる

■「地域」における包括的支援体制

「地域」を中心に「機関」「包括」「連携」が結びついており、ひきこもり支援には地域全体での包括的な支援体制が必要とされている。特に「連携」が重視されているのは、単一機関での対応には限界があることが伺える。

■「必要」とされる専門的支援

「必要」が「知識」「対応」と結びつき、さらに「ケース」とも関連していることから、ひきこもり支援には専門的な知識や個別ケースへの対応力が必要とされていることが示されている。

■「家族」支援の重要性

「家族」が「当事者」と結びついており、ひきこもり支援においては当事者だけでなく、家族への支援も重要な課題として認識されている。

問 24 中高年層（おおむね 40 歳以上）の当事者への支援において貴機関が課題と感じていることがあれば、自由に記入してください。

自由回答の内容を、情報共有・連携、支援の困難さ、家族・当事者、社会資源・支援プログラム、長期化・高齢化、精神・身体的な問題、支援アプローチ・対応方法という 7 つのテーマに基づいて分類した。

■情報共有・連携に関する意見

- ・支援機関がどこなのかわからない。ノウハウを知らない
- ・情報不足のため支援が困難である
- ・情報共有がなく、家族に聞くこともできない
- ・明確な相談窓口がなく、どこに繋がればいいのかかわからない

■支援の困難さに関する意見

- ・当事者が支援を望んでいないことが多い
- ・訪問しても面会が難しく、拒否されることが多い
- ・当事者が支援に繋がらない理由が多岐にわたる
- ・長期にわたる支援が必要だが、人員や業務量のバランスが取れない
- ・地域の中で中高年層のひきこもり実態が把握できていない

■家族・当事者に関する意見

- ・家族が近隣に知られることを避け、支援につながりにくい
- ・家族と本人の悩みに違いがあり、行動が伴わない
- ・家族は長い間当事者をかばい、隠し続けているため問題が表面化しない
- ・親子関係、経済環境、教育課題が複雑で支援が難しい
- ・家族の協力が得られない場合がある

■社会資源・支援プログラムに関する意見

- ・アウトリーチ支援が不足している
- ・福祉サービスを活用した経済的・生活的自立が難しい
- ・中高年層の相談窓口や包括支援の対象にならないことが多い

■長期化・高齢化に関する意見

- ・8050 問題や親の高齢化によって支援が困難化している

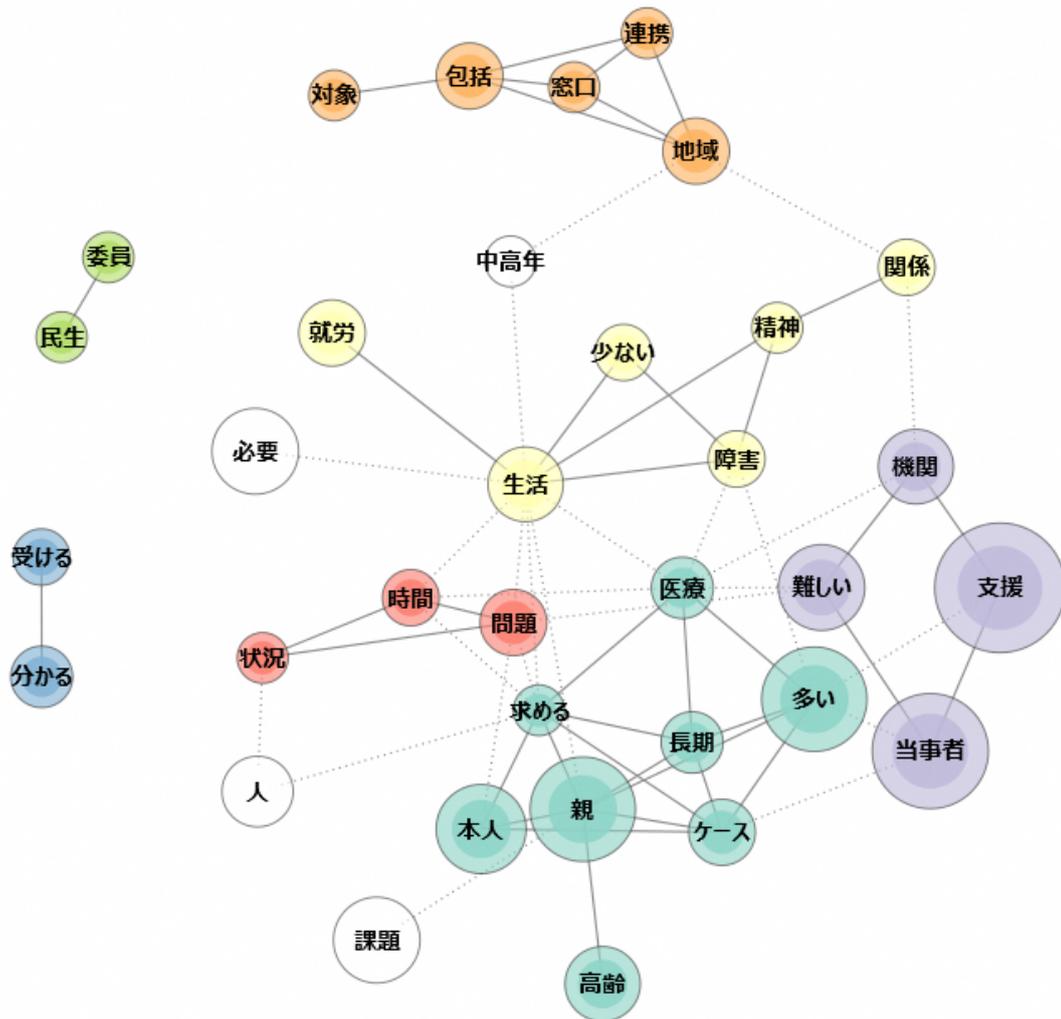
- ・中高年層では就労経験がなく、再就職が難しい
- ・親が亡くなった後の支援開始の限界や課題
- ・相談に来た時点で問題が長期化しており、解決が難しい

■精神・身体的な問題に関する意見

- ・精神疾患や障害が疑われるが、医療につながらない
- ・メンタル面だけでなく、身体的病気の併発や介護問題もあり、複合的な支援が求められる

■支援アプローチ・対応方法に関する意見

- ・支援におけるアプローチやマニュアルがない
- ・話を聞くための方法やアプローチを整備する必要がある
- ・対応が場当たりので、コーディネートする課が明確でない
- ・各支援機関がアセスメント力を高める必要がある



■ 「生活」を取り巻く複合的な課題

「生活」が図の中心に位置し、「就労」「精神」「障害」などと結びついていることから、中高年層の支援では生活全般にわたる複合的な課題への対応が必要であることが示されている。

■ 「医療」と「長期化」する支援

「医療」が「長期」「ケース」「多い」と結びついており、中高年層の支援では医療的な課題を抱えるケースが多く、支援の長期化が顕著な課題となっていることが示されている。また、これらの支援には「難しい」という認識が伴っていることも特徴的である。

■ 「本人」と「親」の高齢化問題

「本人」が「親」「高齢」と結びついていることから、中高年のひきこもり当事者と、さらに高齢化する親との双方への支援が課題となっていることが分かる。

■「支援」機関の対応課題

「支援」「機関」「当事者」の結びつきから、中高年層への支援において、支援機関と当事者との適切な関係構築が課題となっていることが示されている。特に「難しい」との関連は、中高年層特有の支援の困難さが示唆されている。

■「地域」における包括的支援の重要性

「地域」「包括」「連携」「窓口」の結びつきは、地域全体での包括的な支援体制の構築が必要とされていることを示している。中高年層の支援には、複数の専門機関による連携と、包括的な支援アプローチが不可欠であることが示唆されている。

問 30 ひきこもりに係る相談・支援に関して、日頃感じていることやご意見について、自由にご記入ください。

自由回答の内容を、情報共有・連携、支援の難しさ・課題、家族、居場所・社会資源、支援のアプローチ・体制、問題の多様性と個別性、教育・啓発という7つのテーマに基づいて分類した。

■情報共有・連携に関する意見

- ・ 関係機関同士の連携・協働体制の不足
- ・ 相談窓口や支援機関の存在を広く知らしめる情報発信の不足
- ・ 庁内関係機関の意識の醸成と体制の必要性
- ・ 近隣市と連携して相談・支援できる体制を整える必要

■支援の難しさ・課題に関する意見

- ・ ケースによって支援の方法が異なり、対応が難しい
- ・ 当事者の意志や家族の意向により、支援が進まない場合がある
- ・ 支援者も疲弊しやすく、孤独感に襲われやすい
- ・ 長期的な支援が必要で、対応には時間と根気が求められる
- ・ プライバシーや介入の難しさから、支援が進めにくい
- ・ 相談を受けても、どう対応すれば良いか不安がある

■家族に関する意見

- ・ 家族が当事者を支援に繋げられない、または相談する場所がない
- ・ 家族の負担が大きく、時間が経過するほど支援が困難に
- ・ 家族内での問題が多いことが支援を複雑にする
- ・ 家族も含んだ包括的な支援が必要

■居場所・社会資源に関する意見

- ・ 公的な当事者のための居場所や支援プログラムの不足
- ・ 相談できる場やアウトリーチの不足

■支援のアプローチ・体制に関する意見

- ・ 支援者が孤独にならず、長期的に関われる体制づくりが必要
- ・ 支援者同士でつながれる場や医療職の常駐が望ましい
- ・ 法律的な知識と技術を持った支援者の必要性

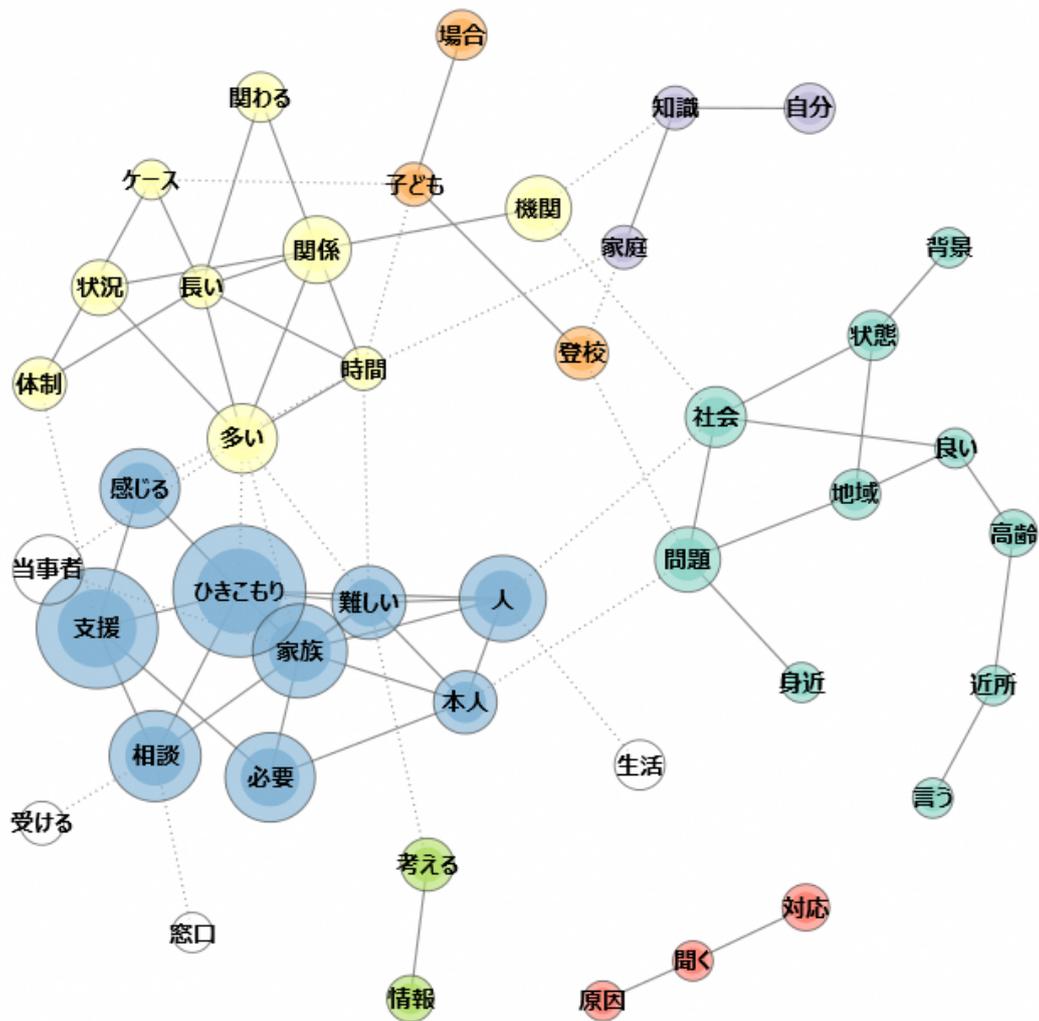
- ・ ひきこもりの背景を考慮した多様な支援アプローチが必要
- ・ 支援者が活動場所や支援機関に繋ぐための技術が支援者の技量に左右されている

■問題の多様性と個別性に関する意見

- ・ ひきこもりの原因や背景が多様で、個々に合わせた支援が求められる
- ・ 一括りの「ひきこもり支援」では対応が難しい
- ・ 背景を無視した支援は逆効果になる可能性

■教育・啓発に関する意見

- ・ 学校や地域での教育の重要性
- ・ 家庭内での教育やサポートが求められる
- ・ 勉強会や研修を通じて支援者や関係者が知識を増やす必要



■ 「ひきこもり」を中心とした支援体制の実態

「ひきこもり」が「支援」「相談」「必要」と強く結びついており、支援体制の重要性が示されている。特に「難しい」という語との関連から、支援における困難さや課題が認識されていることが分かる。また、「家族」との結びつきも強く、当事者だけでなく家族支援の重要性も示唆される。

■ 「社会」における複合的な課題

「社会」が「問題」「状態」「背景」と結びついており、ひきこもりが単なる個人の問題ではなく、社会的な課題として認識されていることが示されている。特に「地域」「高齢」との関連は、地域社会全体での課題として捉えられていることを示唆している。

■「関係」性の多様な側面

「関係」が「多い」「時間」「子ども」と結びついており、支援における関係構築の重要性と、それに要する時間の長さが示されている。また「学校」との関連から、教育機関との連携も重要な要素として認識されている。

■「長い」支援の時間軸

「長い」が「状況」「ケース」と結びついており、支援が長期化する傾向が示されている。これは支援における継続性の重要性と、同時に支援機関の負担も示唆している。

第4章 参考資料

1 調査票

西東京市ひきこもり実態調査 調査票

問1～問30（回答時間の目安：10分程度）をご覧ください、あなたのご意見を教えてください。

● 郵送で回答する場合

回答期限：令和 6年 8月 30日（金）

- ・ アンケート調査票にご記入後、同封の封筒に調査票を入れ、郵便にてご返送ください。（切手は不要です。）
- ・ ご返送の際は、氏名や住所のご記入は不要です。
- ・ ご記入の際は選択肢の数字に○をつけてください。（例 1）

● インターネットで回答する場合

回答期限：令和 6年 8月 30日（金）

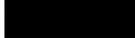
- ・ 下記URLまたは二次元コードより、インターネット回答画面にアクセスし、ご回答ください。

URL：



- ・ インターネット回答の際にはパスワード及び整理番号の入力が必要です。

パスワード：



整理番号：

- ※ パスワードは回答者を制限するため、整理番号は1人が複数回答することを避けるためのものであり個人が特定されることはありません。

あなたの所属機関についてお伺いします

問1 あなたの所属についてお答えください。(○は1つ)

1. 保健所・保健センター	2. 子ども家庭支援センター
3. 1～2以外の市役所の担当課 (具体的に: _____)	
4. 社会福祉協議会	5. 地域包括支援センター
6. 基幹相談支援センター	7. 医療機関
8. 民間支援団体(NPO法人等)	9. 民生委員・児童委員
10. その他 (具体的に: _____)	

問2 あなたの担当地区は、次のどれにあたりますか。(○はいくつでも)

1. 市内全域	2. 南町	3. 向台町
4. 東伏見	5. 柳沢	6. 新町
7. 北原町	8. 田無町	9. 住吉町
10. 泉町	11. 保谷町	12. 谷戸町
13. 緑町	14. 西原町	15. 芝久保町
16. ひばりが丘	17. ひばりが丘北	18. 下保谷
19. 栄町	20. 東町	21. 中町
22. 富士町	23. 北町	

問3 担当する地区内にお住いの「ひきこもりの状態にある方」*を把握していますか。または、相談を受ける機会がありますか。(○は1つ)

把握または相談の機会がある場合は、その件数もあわせてお答えください。(令和5年度実績)

※ここでいう「ひきこもり」とは、「仕事や学校に行かず、かつ家族以外の人との交流をほとんどせずに、6ヶ月以上続けて概ね自宅にとどまり続けている方。ただし、近所への買い物や趣味の用事のときだけ外出することはよい

1. 把握している (件数: 年 件)	} ⇒	問4へ
2. 相談があった (件数: 年 件)		
3. 把握していない	} ⇒	問21へ
4. 相談はなかった		

ひきこもりの状態にある方の状況及びご対応についてお伺いします

問4 担当する地区にひきこもり状態にある方がいることをどのような方法で知りますか。(○はいくつでも)

- | | |
|--------------------|-------------------|
| 1. 家族からの相談 | 2. 各世帯の見守りや安否確認時 |
| 3. 近隣住民からの情報提供(相談) | 4. 自治会・町内会からの情報提供 |
| 5. 教育機関からの情報提供 | 6. 行政機関からの情報提供 |
| 7. 交番・警察・消防からの情報提供 | 8. 本人からの相談 |
| 9. その他(具体的に:) | |

問5 担当する地区にひきこもり状態にある方がいることを知ったとき、どのような対応をすることが多いですか。

(○はいくつでも)

- | | |
|-----------------------------------|-------------------|
| 1. 関係づくりのための訪問を行う | 2. 定期的な見守り・声かけを行う |
| 3. 家族からの相談を聞く | |
| 4. 当事者・家族に対し相談窓口や支援機関について情報提供を行う | |
| 5. 相談窓口や支援機関に対し、当事者・家族に関する情報提供を行う | |
| 6. 当事者・家族が相談窓口・支援機関に行く際に同行する | |
| 7. その他(具体的に:) | |

問6 ひきこもりの方に対して行っている支援の内容についてお答えください。(○はいくつでも)

- | | |
|--------------------------|------------------|
| 1. 当事者のカウンセリング | 2. 居場所の運営 |
| 3. 社会体験活動の提供 | 4. 就労支援 |
| 5. 就学支援 | 6. 家族個別支援(面談等) |
| 7. 家族へのグループ支援(家族教室、交流会等) | 8. イベントの開催(講演会等) |
| 9. 支援情報の提供(他団体の情報含む) | 10. その他(具体的に:) |
| 11. 特になし | |

問7 ひきこもりに係る相談の相談方法として、最も多いものをお答えください。(○は1つ)

- | | | |
|--------|-----------|-----------------|
| 1. 電話 | 2. 対面(来所) | 3. 訪問相談(アウトリーチ) |
| 4. メール | 5. SNS | 6. その他(具体的に:) |

問8 相談者の当事者との関係として、最も多いものをお答えください。(○は1つ)

- | | | | |
|--------|------|----------|----------------|
| 1. 当事者 | 2. 親 | 3. 兄弟・姉妹 | 4. その他(具体的に:) |
|--------|------|----------|----------------|

問9 ひきこもりに係る相談者の年齢として、最も多いものをお答えください。(○は1つ)

- | | | | |
|-----------|------------|------------|-----------|
| 1. 15歳未満 | 2. 15~19歳 | 3. 20~24歳 | 4. 25~29歳 |
| 5. 30~34歳 | 6. 35~39歳 | 7. 40~44歳 | 8. 45~49歳 |
| 9. 50~54歳 | 10. 55~59歳 | 11. 60~64歳 | 12. 65歳以上 |

問10 ひきこもり状態が継続している期間として、最も多いものをお答えください。(○は1つ)

- | | |
|---------------|--------------------------|
| 1. 1年未満 | 2. 1年以上3年未満 |
| 3. 3年以上5年未満 | 4. 5年以上10年未満 |
| 5. 10年以上20年未満 | 6. 20年以上30年未満 |
| 7. 30年以上 | 8. ひきこもりの状態が断続的であり判断が難しい |
| 9. 不明 | |

問11 ひきこもり状態の方の同居者として、最も多いものをお答えください。(○は1つ)

- | | | |
|--------------|----------------|-----------------|
| 1. 同居者あり(家族) | 2. 同居者あり(家族以外) | 3. 同居者なし(一人暮らし) |
| 4. 不明 | 5. その他(具体的に:) | |

問12 主たる生計維持者と当事者との関係として、最も多いものをお答えください。(○は1つ)

- | | | |
|----------------|--------------|--------|
| 1. 当事者 | 2. 親 | 3. 配偶者 |
| 4. 兄弟・姉妹 | 5. その他の家族、親戚 | 6. 不明 |
| 7. その他(具体的に:) | | |

問13 当事者や家族等から相談があったときの当事者の状態として、最も多いものをお答えください。(○は1つ)

- | | |
|---------------------------------|----------------|
| 1. 普段は家にいるが、自分の趣味に関する用事の時だけ外出する | |
| 2. 普段は家にいるが、近所のコンビニなどには出かける | |
| 3. 自室からは出るが、家からは出ない | 4. 自室からほとんど出ない |
| 5. その他(具体的に:) | |

問14 ひきこもり状態にあることを知ったきっかけとして、最も多いものをお答えください。(○は1つ)

- | | |
|------------------|------------------|
| 1. 本人から相談を受けた | 2. 家族から相談を受けた |
| 3. 地域住民からの情報提供 | 4. 市役所や警察からの情報提供 |
| 5. 学校やPTAからの情報提供 | 6. その他(具体的に:) |

問15 ひきこもり状態になった主なきっかけとして、多いものを3つまでお答えください。(○は3つまで)

- | | |
|----------------------------|----------------------|
| 1. 学校になじめなかったこと | 2. 小学校時代の不登校 |
| 3. 中学校時代の不登校 | 4. 高校時代の不登校 |
| 5. 大学(専門学校、短期大学等を含む)時代の不登校 | |
| 6. 受験に失敗したこと(高校・大学等) | 7. 就職活動がうまくいかなかったこと |
| 8. 職場になじめなかったこと | 9. 人間関係がうまくいかなかったこと |
| 10. 病気(病名:) | 11. 妊娠したこと |
| 12. 退職したこと | 13. 介護・看護を担うことになったこと |
| 14. 新型コロナウイルス感染症が流行したこと | 15. 特に理由はない |
| 16. わからない | 17. その他(具体的に:) |

問29 「ひきこもり」の背景や、「ひきこもり」についての考え、社会的な支援についてお尋ねします。

以下の①～⑬について、あなたのお考えに最も近いものに○をつけてください。

(○はそれぞれ1つ)

	そう思う	少しそう思う	どちらとも いえない	あまり そう思わない	そう思わない
① 「ひきこもり」の問題に関心がある	1	2	3	4	5
② 「ひきこもり」は、深刻な社会問題なのだから、早期に解決すべきである	1	2	3	4	5
③ 「ひきこもり」は、家族や周囲の対応によるものであると思う	1	2	3	4	5
④ 「ひきこもり」は、人間関係が希薄になってしまったことによるものだと思う	1	2	3	4	5
⑤ 「ひきこもり」は、インターネット社会の影響があると思う	1	2	3	4	5
⑥ 「ひきこもり」は、30代までの若い世代に多いと思う	1	2	3	4	5
⑦ 現代社会においては、「ひきこもり」は誰にでも起こることだと思う	1	2	3	4	5
⑧ 「ひきこもり」の人や家族は、自分を責めるなど苦しんでいると思う	1	2	3	4	5
⑨ 「ひきこもり」の人は、甘えている感じがする	1	2	3	4	5
⑩ 「ひきこもり」の人や家族には、社会的支援を行うべきであると思う（相談体制の充実や、自立に向けた支援など）	1	2	3	4	5
⑪ 「ひきこもり」の人は、医療の支援が必要だと思う	1	2	3	4	5
⑫ 「ひきこもり」は、早期に支援につなげる必要があると思う	1	2	3	4	5
⑬ 不登校から、「ひきこもり」につながらないために、学校からの支援は必要だと思う	1	2	3	4	5

		そう思う	少しそう思う	どちらとも いえない	あまり そう思わない	そう思わない
⑭	「ひきこもり」の人や家族が孤立しないような地域社会のつながりが必要であると思う	1	2	3	4	5
⑮	「ひきこもり」について、身近な場で相談しやすい窓口が必要だと思う	1	2	3	4	5
⑯	地域の「ひきこもり」の人や家族に対する支援活動に関心がある(相談相手、情報提供、学習支援、NPOへの寄附等)	1	2	3	4	5
⑰	ひきこもりの方やご家族への支援について、今後積極的に関わっていきたいと思う	1	2	3	4	5

問30 ひきこもりに係る相談・支援に関して、日頃感じていることやご意見について、自由にご記入ください。

お疲れ様でした。質問は以上です。

長い時間、ご協力いただきましてありがとうございました。

お手数ですが、調査票のみ同封の封筒に入れ、郵便にてご返送（※切手不要）ください。

ご返送の際は、氏名や住所のご記入は不要です。

西東京市社会参加に関する調査

報告書

(調査名：ひきこもり実態調査)

令和7年1月発行

西東京市 健康福祉部 地域共生課 相談窓口係

〒188-8666

西東京市南町五丁目6番13号

TEL 042 (464) 1311 (代表)

042 (420) 2808 (直通)

e-mail kyousei@city.nishitokyo.lg.jp